

Die Eiche ティ・アイヘ

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in der Präfektur Chiba

Eiche

事務局 〒274-0822 船橋市飯山満町 2-518-1 第二ワールド ナーシング ホーム内

TEL 047-461-9111 FAX 047-461-7010

チター演奏会とワインの会



演奏に聞き入る加藤会長(左端) 他の皆さん



左から吉崎さん、内藤先生、寺田さん

七月三日(土曜日)の午後、恒例のチター演奏会とワインの会が柏市の「ゆうゆう倶楽部」TOWNで開かれた。

今回で三回目となる当日は、あいにくの雨天にもかかわらず当協会の会員とその家族ら23名のほか、今年には日本チター協会の皆さんら18名が参加した。

演奏者は、日本チター協会の会長・内藤敏子先生(当協会理事)と吉崎ゆみ子さんのほか、ハックブレット演奏者として寺田進氏(吉崎さんの実父)が出演された。演奏は、美しいアルプスの花(内藤先生作曲)から始まりレントラー、第三の男、夏のバラなどのほか、短い休息時間にはチターや珍しいハックブレットの解説があった。後半は乙女の祈り、ロンド、バルバラのダンス、エーデルワイスなどの後、ローレライを参加者のハミングと共に弾いて大きな拍手と共に演奏会が終了した。

そのあと、古倉理事から寄贈された高級ドイツワインで乾杯し懇親会に移り、TOWNのシェフが腕を振るって料理したオードブルでワインやビールを堪能しつつ歓談した。

会の後半にはくじ引きがおこなわれ、高価なワインやオリゴ糖の詰め合わせセットなどの当選に会場が盛り上がった。参加者は、帰りに「オリゴのおかげ」のお土産を手に、三々五々散会した。

尚、内藤先生は、下記の要領でチターの演奏会を行います。ご希望の方は、是非共お出掛け下さい。

ーチター演奏会ー

日時: 9月12日(日) 14時より 場所: サントリーホール(大ホール)

曲目および演奏者: 「ウィーンの森の物語」、映画「第三の男」より他。

内藤先生+特別ゲスト「チターデュオ・ウィーン」他。

入場料: S=5,000 A=4,000 B=3,000

お申し込み先: 日本チター協会 TEL: 03(3922)4946

今後の催物案内

お申し込みは同封の返信ハガキにてお申し込み下さい。

■ビール祭り

日時：9月18日(土) 15:00~18:00 場所：ジョン万次郎(船橋店 TEL 047-420-2088)

講演：15:00~16:00

講師：田久保忠衛氏(当協会副会長)・杏林大学社会科学部長・元時事通信社解説委員
「今日の国際情勢」

時間：16時~18時

ビール祭り：“レーベンプロイ”を用意します。アコーディオンの生演奏による合唱。食事付。

くじ引き：ご期待下さい。

会費：4,000円 ご家族、お友達をお誘い合わせてお出掛け下さい。

■ドイツ公費留学生とのバス旅行(主催：(財)日独協会)

滞日 DAAD 留学生・研究生と親善交流をはかるため、徳川御三家のひとつ水戸史跡を訪ね、大洗海岸合掌造りレストランにて交歓会を行います。

日時：10月10日(日) 7:45AM 東京駅丸の内南口・丸ビル前(建築中) 中央郵便局よりへ集合

行先：水戸偕楽園、講道館、大洗海岸のレストランにて懇親会。

会費：6,500円(バス代、他一切を含む)

イタリー・ドイツの教会で歌う

青木 八郎

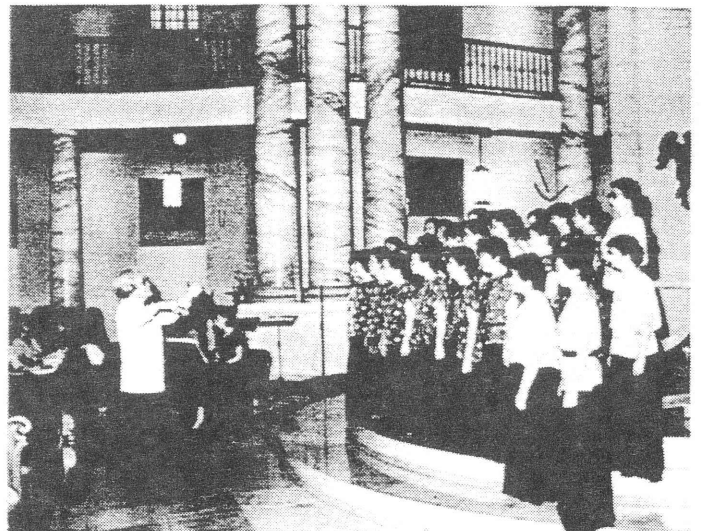
去る七月二日から十日間「ブルーア・アルボレ」(お母さんコーラス)三十名を連れてイタリーとドイツで歌って来ました。教え子の古田ユミさん(東桐音大 声楽科出身)がイタリーのミラノでソロ活動しており、彼女がいろいろお世話になっている「カラウチ合唱団」が私どもを呼んでくれたものです。

その「カラウチ合唱団」のあるベルガモ市の友好都市であるドイツサウス・バツハ市の合唱祭にも特別招待というわけで、二つの国の演奏旅行が出来た次第です。

いずれの演奏会も市を挙げて歓迎してくださり、最後のサウス・バツハ市合唱祭では、チェコ・ポーランド・オーストリア・ハンガリーその他の指揮者、演奏家と親しく語る事ができました。

また、「ミラノ」の「ドーモ大聖堂」で特別許可があり「フォーレ」のレクエムを歌い終えたお母さんコーラスメンバーが、大勢の観光客の聴衆に囲まれて涙していたのが強く印象に残っております。

(ドイツの新聞記事は下記。)



DER JAPANISCHE FRAUENCHOR „Hachiro Aoki“ (Bild) und der „Nordic Chamber Choir“ gaben ein Konzert in der Kirche des Klosters Erlenbad. Foto: lub

ドイツ・エルレンバード修道院にて
“北方室内合唱団”と日本の婦人コーラスの青木八郎氏
によるコンサート。

「日本の婦人コーラスと青木八郎氏は全く異質とは言えないまでも、とりわけ美的に異なつて強調された文化的伝統を聴衆者に紹介した。多声婦人コーラスの為の魅力的で伝統的同時代的な極東日本の音楽の世界を反映する歌と並び、日本で高位勲章を授与されてる指揮者青木八郎氏がザアスに持参したプログラムには、独自に編曲したガブリエルフォーレの“レクイエム”があった。

この事は、西洋の古典音楽に対する日本人の熱狂を思えば、主催者に対する単なる趣向を凝らしたジェスチャー以上のものがある。歌手たちの指揮者に焦点を合わせた集団としてのプレゼンテーション、形式的なしつけ(規律)、プロとしての手作り品の性格といったものにより、素早い動き、ほっそりした指揮者が微妙な良く計算した身振りにより、表面的には自然発生的な効果の達成を可能としている。心からの喝采で迎えられた青木八郎氏の登場はソリスト達、ナオミ・カワハラ(ソプラノ)、ユミ・フルタ(メゾソプラノ)そして伴奏者ヒロコ・デノ(ピアノ)により最もよく支援された。」(新聞記事より)